

令和4年度 第1回学校運営協議会会議実施報告書
(兼 地域産業担い手育成協議会)

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第10条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立中津川工業高等学校 学校運営協議会 (第1回)
(兼 地域産業担い手育成協議会)
- 2 開催日時 令和4年7月19日(火) 13:30~16:30
- 3 開催場所 中津川工業高等学校 仰星会館
- 4 参加者
- | | | |
|-------|--------|----------------|
| 会長 | 松井 進 | 本校同窓会長 |
| 副会長 | 小川 恵一 | 坂本地区民生委員長 |
| | 黒田 ところ | 中津川市議会議員 |
| | 加藤 早苗 | 株式会社大同キャスティングス |
| | 大山 安彦 | 本校育友会長 |
| 教育委員会 | 藤本 幸弘 | 学校支援課 指導主事 |
| 学校側 | 加藤 信男 | 校長 |
| | 伊藤 岳明 | 教頭 |
| | 斉藤 良成 | 事務長 |
| | 藤浪 元明 | 教務主任 |
| | 水谷健太郎 | 生徒支援主事 |
| | 山田 豪 | 進路支援主事 |
| | 後藤 昭博 | 工業部長 |
| | 鷹見 隆靖 | 教務部：記録 |

5 本年の取組について

(1) 学校の現状について

コロナの感染状況について、濃厚接触者はいるものの陽性者はほとんど出ていない。授業や実習や部活動などでしっかり感染対策を行っている。

部活動では、バスケットボール部が地区総体で優勝、陸上競技部では3年電気科の生徒が東海大会で優勝シインターハイに出場することとなった。文化系の部活動では、電気工学部が、ものづくりコンテストで東海大会に出場する。コロナとともに日々変化する教育現場で教員が一団となって対応しながら生徒の育成に力を入れていきたい。

(2) 教務部より

R 4 年度の入学志願者数が入学定員を大きく割りこんでしまった。本年は YouTube を活用して学校の様子を P R するとともに、夏に行われる中学生の 1 日入学でさらに P R していく。

(3) 生徒支援部より

気持ちの良い挨拶をめざし、入学後には上級生から 1 年生への挨拶指導をはじめ、生徒会による朝の挨拶活動にて、活性化するように努めている。

S N S 等に関する情報モラル講話を開き、利用方法等の意識付けを行っている。

(4) 進路支援部より

7 月より求人情報が解禁となり、昨年よりも工業系の求人は増えてきている。近年では、県外へ就職するよりも地元での就職が増加している。職場でのコミュニケーションがうまく取れず、会社を辞めてしまう者がいる。

(5) 工業部より

地域連携について、テクノボランティア等を行っていたが、コロナ禍により活動がしにくくなってきているが、活動できる範囲で継続をしていく。

入学生へ入学の動機等に関するアンケートを行ったところ、YouTube やインターネット等で情報を得てきていることがわかり、本年も引き続き P R を行う。

(6) 運営協議会について

6 会議の概要（協議事項）

(1) 会長・副会長の選出について、全委員より承認が得られた。

会長	松井 進	本校同窓会長
副会長	小川 恵一	坂本地区民生委員長

(2) 社会で必要な力、学んでおくべき設備について

意見 1：工作機械など実習装置等の老朽化もあるが、近年 I C T 機器の発達により、レーザー加工機や 3 D プリンターなどが主流となってきている。基本的な利用方法や、オペレーション機能は習得が必須になってきている。これからの産業を担うため、最先端技術に対応できる人材の育成を目指してほしい。

意見 2：地元には多くの優良企業があるため、最新機器を持つ企業や、利用している現場などを見に行くなどの工夫をする必要がある。

意見 3：体育館の結露など、住宅について勉強している建築科で温度と湿度の関係など身近な課題解決について取り組むのもよいのではないかと。

意見 4：社会では挨拶などのコミュニケーションが必要である。企業では先輩からの話を聞き、自分で考えて行動できる力も必要である。

学 校：挨拶について、コロナ禍でマスクをすることが増え、大きな声で挨拶することが減っているように感じる。校内の様々な場面で挨拶の機会を増やしていきたい。

(3) 工業を理解してもらうための地域連携について

意見1：リニア開通に向けて変化する地区として、リニアに近い学校としてさらにPRしていく。

意見2：コロナ禍で思うようなPR活動ができないが、ものづくり教室や六斎市等に出店するなど地域のイベントに参加し地域の方に向けてPRしていく必要がある。

意見3：コロナ禍で人と関わるのが制限されるが、テクノボランティアなどは残していくとよい。

意見4：広報活動は慎重になることが多いがまずは発信してみるのがよい。その中で遊びも含めて機器を使いながら腕を上げていき、SNSなどを利用したPRができるとよい。

意見5：本校には非常用発電機もあり、災害時避難所として活用できる設備がある。結露して利用できない状態を改善するために予算化すべき。

学 校：学校から地域への連携要求は多数の案が出やすいが、地域主体で学校と連携する場が少ないため、商工会議所や市からの提案を得て、地域を盛り上げていきたい。

(4) 生徒が減少していく中で、本校はどのように変わるべきか

意見1：工業高校を理解してもらうために、YouTube や SNS 等を用いて本校の魅力や活動をPRしていく必要がある。

意見2：「資格取得ができる」「就職に有利」だけでは中学生に工業高校のイメージが伝わらないのではないかと。具体性をもって、メディアに取り上げてもらうなど工業高校のイメージを伝える必要がある。

意見3：魅力ある学校づくりを、学校にいる教員がもっと危機感を感じ、意識を上げる必要があるのではないかと。

学 校：東濃東部では、今後80名から120名程度子どもが減ることとなるため、地域全体として入学定員の充足が困難な状況となる。就職でも多くの求人をいただいているが、生徒を送り出すことができなくなってくる。

(5) その他（学校運営協議会の開催日等）

第2回 10月末～11月中旬 授業見学

第3回 1月末～2月上旬 課題研究発表会

会議のまとめ

第1回学校運営協議会では、今年度の本校の学校経営計画を踏まえた学校運営方針について説明を行い、全委員より承認が得られた。施設見学と部活動の見学をした後に協議を行った。生産系部活動の見学では 実習室等の設備の見学も行った。生徒からの気持ちのよい挨拶などが好評であった一方で、機械設備の古さの指摘もあった。地域との連携を求める声が多く、工業高校として地域に根差した活動の必要性を強く感じた。積極的に地域や中学校に向けたPRを行いたい。